

日四十月三



定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五字一円 十字一円五 二十字二円 三十字三円 四十字四円 五十字五円 六十字六円 七十字七円 八十字八円 九十字九円 百字十円
日曜日の翌日休刊
発行所 警警新聞社 東京市本町三丁目
電話 六二〇〇
印刷所 警警印刷株式会社 東京市本町三丁目



狸湯の仇討

シナリオ
原作 江見水陸
脚色 木津茂太郎

【六】

梶倉大次。
氣の毒乍ら親爺同様地獄へやるぞ。
輪貫兵馬。
殺しても湯治場たけに湯濯だけは遣はしてやるぞ！
瀬川半三郎。
早く出る！
三人の身仕度を監視して追立てるやうに室内屋を出る。東光寺さして同道する。
敵討だ！
湯之峯の人々大騒ぎになる。山に登る者。屋根に登る者。往來は群集で雑踏する。
町——往來屋根、石段の群集から、カメラ急に室内屋の二階へ動く。室内屋二階——窓。主婦お周と娘お照が見てゐる。
興奮してゐる二人。カメラまたも東光寺の高臺へ急轉する。
高臺の空地。
いよいよ敵討が初まる。ちひさく四人の姿が見える。

窓。
興奮してゐる母と子。お照叫ぶ。
あ、あれ——三人で一度に斬り掛つた。危い半様。
空地。
半三郎梶倉の肩を斬るだが、彼は倒れずに傷を負ひながら向つてゐる。
左右から輪貫と伊羅がつめ寄らうとする。
荒れた唇を濡すと乾いてから却つて荒れがひどくなる。齧めずに蜂蜜がグリセリンを塗ると治る。
半三郎、青眼。
半三郎伊羅を突くと見せて、輪貫の小手を斬る。
輪貫は片方の手に残つた刀を半三郎の顔を目掛けて投付ける。
半三郎受け損じて頭から額右眉尻へ傷を受ける。
流れる血汐。
輪貫逃げ出す。
窓。
お照。
あ——半様が……。
お照氣絶する。母介抱

する。
山上、樹上、屋上の群集ときの聲を上げる。
半三郎傷を受け乍らも逃げ出した三人の後を追うて高臺から谷川の方へ。
歡聲を上げてゐる群集。
谷。
三人と戦ふ半三郎。
谷は群集でいつばいであるが、半三郎の周囲だけは人がゐない。
狸の湯。
岩の上。
無傷の伊羅伴助大いに奮闘する。
梶倉は片手で刀を振る。輪貫は刀が無いので片手で河原の小石を投げつける。
梶倉を斬る半三郎。倒れる梶倉。
明日の献立——
【朝】ふくめ煮：ぜんまい あさり
【晝】煮肴：むつ煮付 あられ 生姜
【晚】白あへ：うど推茸
輪貫を竹制りにする半三郎。
倒れる輪貫。
伴助、半三郎へ斬り掛かる。半三郎体を化はして逆に伴助に斬り込む。

生徒募集

一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試験入學ヲ許ス
一、申込期日 四月八日迄

平町一丁目

石城 産婆 學校
校長 應崎 千代
電話三五七番

イヤ！ 君！
いゝ冬服を求めたね
斷然三三年型だよ
いやコレカネ！
例の……「リレ」
正札堂さ

三六四電 通場車停平日丁四

貸切の御用命は！

獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

肉 鹽 豚 蒲 鉾

田町 三三三屋

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五一三番

陽女學校 入學案内

文部大臣 陽女學校 入學案内
一、入學生徒募集人員
本科(修業年限二年)五十名 師範科(同上)三十名
技藝高等科(同上)五十名 技藝普通科(同上)五十名
専攻科(同一年)二十名 専修科(同一年以上)五十名
一、授業料値下と各科の授業料
本校は經濟界の不振に鑑み各科授業料の値下を斷行しました
本科一圓五十錢 師範科一圓五十錢 技藝高等科一圓三十錢 専攻科一圓五十錢 技藝普通科五十錢 専修科一圓
一、入學手續
志願者は入學願書に履歷書を添え三月三十一日迄に本校宛提出して下さい
受附順により入學を許可致します
石城郡 平町
文部大臣 認可 平陽女學校
附設 平陽家政女學校
電話 四四五番
振替口座仙臺五六八二番

外科 小兒科 内科 一般科

醫學博士 渡部 義夫
女 醫學士 渡部 きい子
平町田町大通り(電話二七七番)
入院應需 渡部 外科

本郡の在米高

三月一日現在發表

既報平穀物検査所では過般改正となつた在米調査法に依り調査委員を擧げて第一回の在米調査を行った結果石城郡下に於ける三月一日現在の在米高は總計十二萬一千五百一石と發表されたが持米の最も多いのは地主及び生産者の十萬五千石、農業倉庫に八千五百廿九石、商人及び精米業者が四千五百四十四石、縣指定倉庫は二千四百六十九石、此外運送店や銀行の倉庫に千三百五十二石等で社寺所有は九十七石である

多門師團長から

懇篤な感謝状

過般來平された第二師團長多門二郎氏より本日平町各官衙學校を始め町の有力者に對し左の如き感謝狀を寄せられた

拜啓過日貴地方參上の節は到る所官民各位の熱烈なる御接待を蒙り一方ならぬ御懇情に浴し候段感謝の至に御座候當師團渡滿以來聊か乍ら任務を達成し得候も管下縣民各位より寄せられし御後援に負ふ所甚大にして今日尙愈々旺なる軍民一致の實情を拜見し爲邦家欣賀至極に御座候

今や時局は愈々重大を加へ眞に舉國一致正義の斷行に邁進するの途あるのみ状況に直而致候何卒一層御自愛の上作上

△綴長大高重器氏
△綴長立林信勝氏は助川驛長に、後任助川驛長淺川虎彦氏
△平保線區主任伊藤小四郎氏は水戸保線土木課主任に、後任銚子保線區主任江上浩氏
△綴倉庫主任重田善助氏は經理課倉庫係に、後任は同係今里延次郎氏

雪解け毎に

少量宛の追肥

降雪被害対策

石城郡農會では最近の頻々たる降雪の爲め各農家の農作物被害調査を行つたが既記の如く促成野菜の胡瓜茄子等が光線を遮られて濕氣多くまた開花期の梅等が稍々結實期を遅れたのと一般野菜類中には肥料不充

平商の試験委員

▽...本月末に決定す

生産検査

俵数が減少

平商業學校に於ける本年度入學試験は来る二十七、二十八の兩日執行されるが試験委員は本日左の如く決定した因に本日迄の入學志望者数は五十八名である
△口頭試問(人學)服部、武川、泉田、大澤(地理)室原、人物、武川(歴史)下山田(理科)新田
△筆答試問(國語)中村、泉田、下山田(算術)宮澤新田、本

拂下米購入資金

第一回分の融通

平窪村に一千圓割當

石城郡平窪村では昨午の災害罹災者救助基金として豫てより縣當局に政府拂下米購入資金の融通方を申請中であつたが今回郡下に於ける第一回分の融通村として千圓を割當られる事になつた

補助増額

豊間で陳情

石城郡豊間村にては工事中である漁港修築の總工費二十二萬餘圓に對し七、八兩年度に六割の補助額を増額せられ度いと運動實現の爲め昨十三日鈴木村長及び遠藤鈴木漁業組合代表者等が出陳陳情した

平町人事

△杉平二〇 佐藤喜市氏長
△四丁目五九 渡邊順氏二男昌洋
△杉平二〇 佐藤喜市氏(二入同所吉田チヨ(三一))
△福岡縣三瀬郡大善寺村字宮本 川原精二氏(二九)田町一六 鈴木文子(二四)
△立町三 鈴木洋子(二ツ)

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町
電話一〇七

金銀高價買入

根本時計店

平町二丁目(三幸堂跡)
電話六〇七番

共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙 郎
自宅(電話二四番)

内科 醫學博士 石山謙 郎
小兒科 醫學博士 佐久間 次郎
外科 醫學博士 桂馬重 二
喉科 醫學士 有馬雄 二
皮膚科 醫學士 五十嵐 雄
産婦人科 醫學士 佐久間 粹
X光線科 醫學博士 石山謙 郎
衛生試驗所 醫學博士 石山謙 郎
藥局 藥劑士 高本孝 平
診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

平町 磐城共濟會
電話六四一番

中村齒科醫院

平町 鍛冶町七

牛乳業の脅威

産業組合が計劃

組合員の飼牛から

搾乳して販賣する

牛乳搾取法規定改正案實施の際有力町村の産業組合に共同牛乳搾取場を設置せしめ組合員の飼牛より搾乳販賣し組合事業の確立を計るべく目下研究中であるが一般牛乳搾取業者にとつては商賣上強敵の出現なので成行を注意されて居る

氣温低下し

水道管破裂

今朝七件の多數に

平地方最近の氣温は連續する降雪の爲め例年よりも著しく低下し平町水道部では水道管の破裂を怖れて居た矢先昨日の降雪で更に寒氣が加はり今朝に至ると市内水道管の鉛管破裂が木工町東部電力外六件の多數に及んだので直に係員を派して修理中であるが當分寒氣の續く間は水道管を蒸か布類で包み直接寒風にさらさぬ様注意せられ度いと

音信なし

父親を捜査

石城郡内郷村字白水居住日雇業河村正(○)は本年一月炭礦坑夫を失業し妻ミイ(三)及び長男政男(九)とを

優等授賞者は

全校児童の一割五分

平第一小學校にては來る二十四日午前九時より講堂に於て本年度卒業式及び修了式を舉行するが當日優等賞を授與される各學年の優良兒数は左の如く全校児童の

女子師範合格

二小學校本年度高等科卒業生である平署高橋警部補の二女之子さんは過般執行された本縣女子師範學校一部入學試験に合格したと

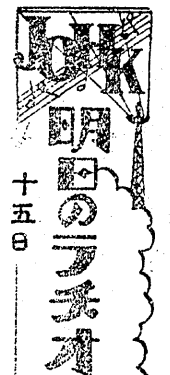
田町衛生係員

第四區田町の衛生區長及び世話係員は此程改選の結果左記諸氏に決定した

(區長)鈴木建太郎(世話係)小山田吉次 今川安治 遠藤豊治 新妻慎治

震災地へ衣類

郡内郷村綴羅前賣店山口甚六氏は三陸地方震災罹災者に同情し村内から貰ひ集めた衣類等既に大綱十二ヶを罹災地へ發送したと



今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
お話「金」植村癸巳男
後七、三〇 講演「國民融和に就て」内務大臣男爵山本達雄
後八、〇〇 義太夫「傾城戀飛脚」(新口村の段)豊竹團司 豊竹小庄
名(六年)三十名(高一)二十名(高二)二十名

勿來關櫻樹手入に

青年團員が奉仕出動

石城郡勿來町青年團員三十餘名は勿來の關櫻樹手入の爲め來る廿三日奉仕的に出動して肥料其他の手入れを行ふと

仲間衛生區長

十七區(仲間町)衛生區長は豫て欠員中の處今回長谷川權藏氏が選任された

控訴院長視察

控訴院檢察長古河行倫氏は福島地方裁判所植田檢察正と共に明日午後十二時五十分着にて來平、平區裁判所の事務視察を行ふと

豊間青年役員

郡豊間村青年團では來る十七日午後一時より村役場に於いて役員の改選を行ふ筈

平裁判たより

茨城郡多賀郡商中郷村字足洗十六番地疊職白沼富彌(三)が昨年十月初旬石城郡

かいサンド井ツチ「京佐與子」
前二、〇〇 家庭講座「育兒三題」東京中央放送局
後二、〇〇 婦人講座「歌の正しさうたい方」(七)實演ソプラノ 長坂好子ピアノ伴奏 川村信義
後五、三五 「少年少女職業指導講座」菓子製造職工になるのは 山崎宗晴
後六、〇〇 「伏見海軍軍令部長宮殿下奉迎の夕」

後七、三〇 講演「支倉六右衛門と林子平」第二高等學校長 阿刀田令造
後八、〇〇 合唱 宮城縣第一高等女學校生徒 伴奏 吉井采
後八、二五 管絃樂 東北帝大管絃樂團 指揮 森本次郎
後八、三〇 民謡 高橋えほ外
後九、一〇 御國淨瑠璃「總信兄弟屋島の譽」鈴木幸龍

看護婦急派

の求めに應

します

平町南町

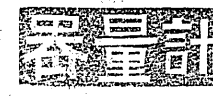
平看護婦會

電話三〇七番

吸入用酸素純度99%



モノサシ
マ
ス
ハカリ



体温器
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

関内藥局

電話四〇番

茶室の御寄

【禁煙上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
佐々木見山

第二百八十九席

座興が真となり

渡邊金彌と松崎采女は二人の女に盃をさして
金「是非これを受けていた
きたい美事にお過ごさ
されたならば何なりとも御
所望に應じて差出します」
女「それならば頂戴いたし
ます」

金「召上つていたゞきたい
な、斯様いたさう殿様から
拜領いたしたこの印籠を差
上げよう」
女「女にそんな物は要りま
せんよ」

金「それではこの脇差を献
上いたさう」
女「なんですぬ女に脇差な
どは要りませんよ」
金「これは困つたな、金子
を差出すも失禮、何が御所
望でござる」

女「あなたの乗つてお出で
になりましたお馬を頂戴い
たします」

これを聞くと金彌と采女
はアハ、と笑ひ
金「これは又奇なるものを
お望みなさるナ、よろしい
この盃に波々とたたへし酒
を召上つたならば馬を献上
仕る」

と云ふと側にゐた馬丁が
馬「渡邊さん、亂暴だ」と

をしてはいけません、この
馬は殿様の御乗馬です、若
しあの女がその酒を飲んで
お約束通り馬をくれろと云
つたらどうします」
金「心配するなその時はな
この馬に乗つて戻れと云
ふ町家の女どもとて



馬術の心得はあるま
い、さすれば馬に乗つ
て此處を引揚げる事はある
まい乗れぬ馬は遣ふことは
ならぬとかう申して約束を
おちこはしてしまふ」
馬「成る程若し乗つて歸つ
た時はどうなさる」

金「萬に一つもそんな事は
無いぞ、さあ御婦人我々共
の想ひざし是非お受け下さ
い」
女「困りましたね、妹もわ
たしもお酒は飲めないの
すよ、ねえ爺やどうしたら
宜いだらう」
と附添の男に聞くと
老「がまんしてそのお酒を
召上られ、それを飲めばこ
の馬が貰へます」
女「おかねや、おまへもお
酒をお上がりよ」
かね「姐さん一緒に飲みま

ち
金「えらい、あつぱれ」
女「お薬をのむ思ひでいた
ゞきましたよ」
紙を出して口をぬぐひ
女「それではこの馬をお貰
ひ申しますよ二人揃つてズ
イト馬の側へ来た」
金「まさに差上げる、約束
いたした以上は馬を差上げ
る、しがし馬を御所望なさ
れる程であれば取すことも
御存知であらうな」
女「知りませんよ、お馬に
乗つた事はないんですよ」
金「乗ることの出来ない馬
を貰へばとてそれは邪魔で
あらう」
女「それでも他にいたゞく
物はありませんよ、ちよい
とおかね、乗つて見ようぢ
やないか」

と馬丁から手綱を取つて
二人はヒラリと馬に飛び乗
りましたがヨロツバの婦
人が馬を取すやうに足を下
げて横に乗りました、あれ
は見た目がよろしい、女が
跨がつて手綱をとるはおか
しい、見たかたがよろし
くない、やがて二人はバツ
／＼バツと輪乗を駆けてお
たが、ハイヨーと馬勢をた
すけてトツ／＼トツ／＼と
飛鳥山を下つた、其頃の飛
鳥山は北の嶺です、わたく
しが瀧野川に居た時は折々
飛鳥山に行つて癪につまづ
いてころんだ事がある、
イヤ二人の山を駆け下るを
見て驚いたは松崎采女に渡
邊金彌コハ怪しからん、し
ばらく待てと呼びながら馬

丁と共に追つかけたが、
向ふは四本の脚で驅けるこ
ととてなかなか追つづくこ
とが出来ない、駒込の富士
前で来たが渡邊も松崎もそ
れへたふれてウームとうな
つてゐる、馬丁は口を結ん
で鼻で呼吸をしながら追ひ
ゆきましたたがこれを見失つ
てしまつた、仕方がないか
ら引返して来ると松崎に渡
邊はやう／＼起き上り
金「これは大變、殿様の御
乗馬を二人の女に奪はれて
は申しわけのいたしやうも
ない、どうしたものであら
う」
馬「おまへさん方は馬鹿だ
からだまされた、あの女は
曲者でございます」
金「曲者の中でも質の悪い
奴だ、ハテどうしたものか
……」
と二人は顔を見合して歎
息した

上田外科醫院
平町 南町
電話二二九番

三河産業博覽會 金牌受賞
昭和産業博覽會
かまぼこ製造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

井坂醫院
平町田町 電話五五九番

吉田眼科病院
平町星町 電話六八番

お醤油は ヤマフル
醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町電話營業部三醸造工場三
明治生命營城代理店 山崎與三郎